

日々の健康を支え 命を守る

高槻には、日常的な健康管理から高度な医療まで、安全・安心の医療体制が整っています。高槻市薬剤師会は、161薬局と252人の会員（令和7年11月現在）で構成。昭和52年の創立以来、市民が「かかりつけ薬局」で、気軽に調剤や健康に関する相談ができ、安心して薬を購入できる環境づくりに取り組んでいます。

信頼できるかかりつけ薬局へ

服薬で大切なことは、薬の効果や副作用をしっかり理解すること、間違った飲み方をしていないか、薬が重複していないかなどを継続して確認することです。そんなときに頼ってほしいのがかかりつけ薬局です。市内には多くの薬局がありますので、身近で信頼できる薬局が必ず見つかるはずです。

患者さんに自宅にある薬を袋に入れて持ってきてもらい、薬剤師が中身を確認してアドバイスする取り組みをブラウンバッグ運動といいます。病院で処方された薬や市販薬、サプリメントなどを持参していただくと、飲み合わせなどを確認するというもので、使用



期限切れの薬は廃棄し、使用できるものは、医師に処方日数を調整するよう伝えます。服薬管理をサポートすることで、患者さんにとって、薬代が軽減されますし、なにより副作用のリスクが低減されます。不安の解消やQOL（生活の質）の向上にもつながりますので、当会ではブラウンバッグ運動を推進しています。会員の薬局では専用の袋も配布していて、気軽にサポートが受けられる体制になっています。

また、患者さんが自身の病気を受け入れ、治療方針に賛同して服薬を続けられるようになることを服薬アドヒアラנסといいます。服薬が滞ると治療が長引くリスクになりますので、当会では、丁寧な服薬相談を通じて、患者さんの服薬アドヒアラנס向上につながるよう努めています。



市民に安全安心を届ける薬局に



ブラウンバッグ運動を推進。薬を持参するための専用の袋は会員の薬局で手に入る

緊急時も災害時も安心を

お薬・健康に関するることは、かかりつけ薬局の薬剤師になんでもご相談ください



今回お話を伺ったのは
一般社団法人高槻市薬剤師会
会長 三宅良宏さん

急なけがや発熱に対応する高槻島本夜間休日応急診療所では、当会の薬剤師が輪番で調剤業務に従事しています。また、一部の当会薬局では、緊急性の高い処方せん調剤のため、休日や夜間対応を行い、いざというときにも患者さんが安心して服薬できる環境を確保しています。

それは災害時でも同じです。災害医療救護訓練などを通じて、高槻で災害が起ったときに、しっかりと対応でき



災害医療救護訓練

る準備を続けています。もし交通網に被害を受けて、市外から薬の供給が滞っても、当会薬局から在庫の医薬品が集まる仕組みができています。

また、能登半島地震の際には、大阪府薬剤師会が、調剤のできる移動薬局車両「モバイルファーマシー」を派遣。当会の薬剤師も同行し、調剤業務や健康相談業務を担いました。市民の命を守る体制が確実に進化していると実感しています。



モバイルファーマシー